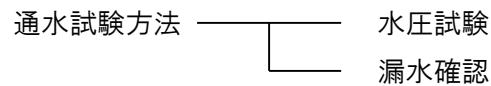


通水試験の実施要領

試験の方法

水道管の水密性と安全性を確認する目的で、通水試験を行うとともに、試験的な送水を行って水道管の機能性の確認及び安全性の確認を行うものとする。



(1) 水圧試験

水圧試験は、水道管が設計水圧（静水圧+水撃圧）に安全に耐え得ることを確認するために行うものである。

水圧試験の方法は、次の通りとする。

- ① 試験区間を完全に仕切る。
- ② 水圧試験の加圧に先立って管内の空気は完全に排除を行い、事故等の異常には注意しなければならない。
- ③ 水圧試験は、試験区間において水道管に圧力ポンプで0.75Mpaまで加圧し、水圧測定装置による水圧の測定・記録、水道管の異常の有無の確認を行う。供用区間の場合、15分経過後における水圧保持が出来れば合格とする。未供用区間の場合については、60分以上の水圧保持が出来れば合格とする。

(2) 漏水確認

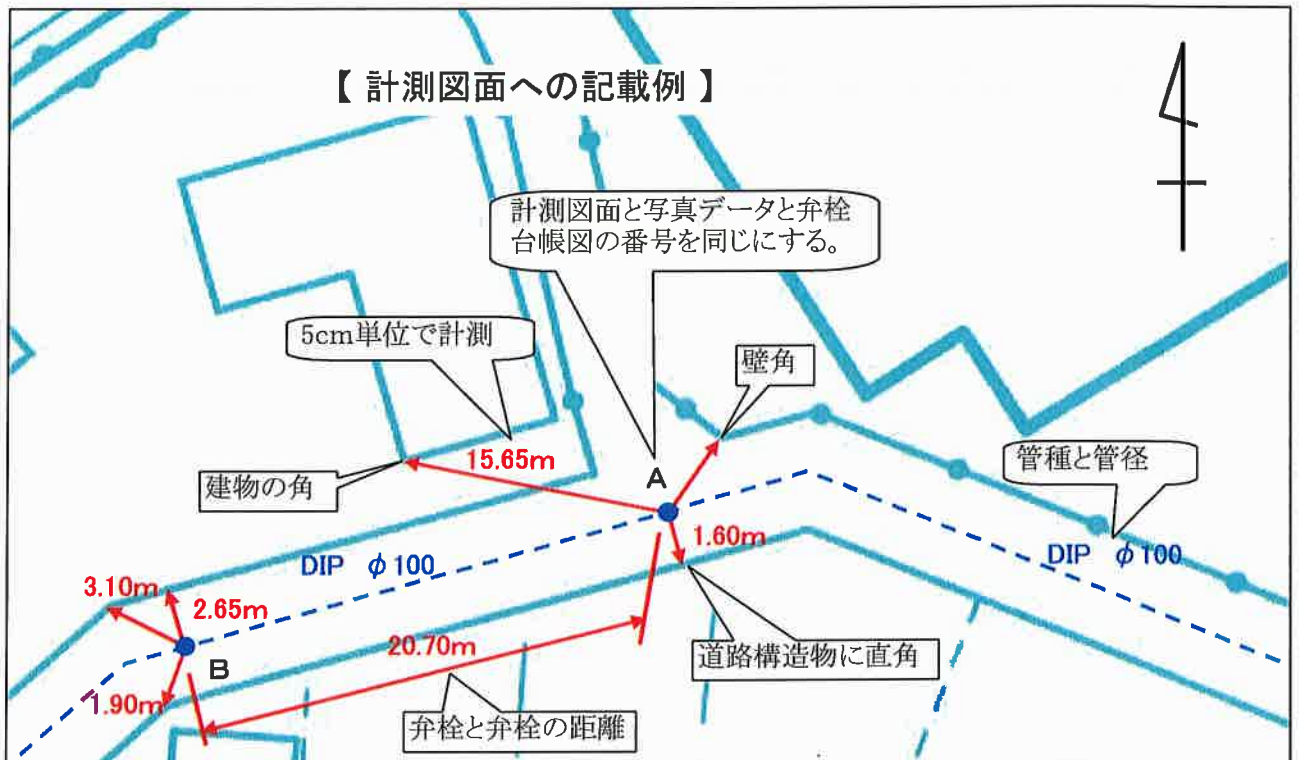
通水試験において、水道水の減少及び水圧が減少した場合はもとより、管路に漏水等の異常が見られない場合においても、埋設区間の確認作業を行う。

- ① 水道管の埋設区間の地表の目視による確認。
- ② 音聴棒による漏水音の有無の確認作業。
- ③ 音聴棒による漏水音の確認後は、漏水探知機による調査確認。
- ④ 漏水並びに異常の確認時においては、速やかに異常個所の修理等の適正な止水対策の実施。

(3) その他

水道水の水道水質基準に基づく0.1mg/L以上の残留塩素を保持できるよう、管内洗浄を十分に行った後、通水を行うものとする。

弁 栓 台 帳 図 作 成 要 領



【計測方法】

- ・原則としては、工事終了後調査するものとする。
- ・計測した結果を、計画図面、設計図面、都市計画図、住宅地図、ポンチ絵、その他の図面に記載し提出する。
- ・上記記載例の矢印が示すような箇所を **5cm**単位で現場の状況を判断し計測。
- ・計測する際は、弁栓の蓋中心からでよい。
- ・必ず弁栓1つに対して**3箇所**以上計測し、弁栓位置が特定できるようにする。
- ・弁栓と弁栓の距離を計測。
- ・管種・管径を記載。
- ・計測図面と写真データと弁栓台帳図の番号を同じにする。付与する番号は任意でよい。

【写真撮影方法】

- ・ 弁栓一箇所につき遠景・近景の写真を撮影し、弁栓台帳図に貼り付け提出する。

(撮影例)

遠景 (写真データ名：A-1)



近景 (写真データ名：A-2)



遠景 (写真データ名：B-1)



近景 (写真データ名：B-2)



遠景 (写真データ名：C-1)



近景 (写真データ名：C-2)

